

社会福祉法人 駿河厚生会

地域密着型介護老人福祉施設 柏葉尾苑

令和6年度 第5回 運営推進会議

令和7年1月24日（金）14：00～

1. 開会の挨拶
2. 事業所の概要説明
3. 入所者状況の報告
4. 活動状況の報告
5. 感染症対策について
6. 次回のテーマについて
7. その他ご意見、ご要望、助言等
8. 閉会の挨拶

<事業所の概要> ※重要事項説明書より抜粋

事業者の概要

開設者の名称	社会福祉法人 駿河厚生会
主たる事務所の所在地	静岡県沼津市大岡3571番地の1
電話番号	055-926-8500
法人の種別及び名称	社会福祉法人 駿河厚生会
代表者職	理事長
代表者氏名	河野 義文

施設の名称	地域密着型介護老人福祉施設 柏葉尾苑（かしぼおえん）
施設の所在地	静岡県沼津市大岡3947番地の1
電話番号	055-955-8777
施設長名	河野 義文
介護保険事業所番号	2291100481
事業種別	指定地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護
開設年月日	令和5年4月1日
定員	29名
交通の便	JR沼津駅からタクシーで20分 バス停「マーレ沼津工場前（北小林）」より徒歩20分

(注) 当施設「柏葉尾苑」は、介護老人福祉施設「沼津フジビューホーム」（沼津市大岡3571番地の1）を本体施設とし、本体施設との密接な連携を確保しつつ、本体施設とは別の場所で運営されるサテライト型居住施設です。

職員数

職種	員数	勤務の体制	
施設長	1人	常勤 1人（本体施設との兼務）	
生活相談員	1人	常勤 1人	非常勤 0人
看護職員	1人以上	常勤換算 2人	
介護職員	9人以上	常勤換算 15人 （うち、1人以上はユニットリーダー）	
管理栄養士	1人	常勤 1人 （本体施設との兼務）	非常勤 0人
機能訓練指導員	1人	常勤 0人	非常勤 1人
介護支援専門員	1人	常勤 1人	非常勤 0人
調理員	(株)クリエイティブ食彩倶楽部 委託給食です。 住所：富士市伝法 114-9 TEL：0545-221-1055		

<入所者の状況>

入所者の要介護度・年齢（令和6年11月23日～令和7年1月24日）

利用者数		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	人数計
65歳未満	男	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0
65歳以上 75歳未満	男	0	0	2	0	0	2
	女	0	0	0	2	0	2
75歳以上 85歳未満	男	0	0	0	3	2	5
	女	0	0	1	1	1	3
85歳以上 95歳未満	男	0	0	3	0	0	3
	女	0	0	6	3	2	11
95歳以上	男	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	2	3	0	5
人数計		0	0	14	12	5	31

令和7年1月24日現在

◎平均介護度 3.72

◎平均年齢 85.4歳（男性78.1歳・女性88.2歳）

入院 ・R6.11.17～R6.11.19 敗血症

R6.11.19～R6.12.16 転院

退所 看取り・逝去 1名

入院・逝去 1名

入所 2名

<活動状況の報告>

◎クリスマス会



◎お正月



研修

研修内容	実施月	参加対象者	場所
ノーリフティング研修	R6年 12/17・1/21	介護職員	フジビュー デイルーム
認知症介護 実践者研修	R6年 10/7、21・11/18・12/2 R7年 1/21	介護職員 1名	シズウェル
認知症介護実践 リーダー研修	R6年 7/9、22・8/9、22・9/6 17・11/26 or 29	介護職員 1名	シズウェル
ユニットリーダー研修 実地研修	R6年 12/18～20	生活相談員	フレンド神木 二番館

ヒヤリハット 1件

◎12/16（月）0：15

トイレ誘導が終わり、ベッドに戻る。車椅子からベッドに移る際、腰がひけ、足に力が入らない状態で、ゆっくりとそのまま床にしゃがみこむ状態となる。支えていたため、尻もちをつくことはなかった。

→夜中だったため、しっかり覚醒していなかったことや、トイレでは縦のバーがあるが、ベッドには横のバーしかないことから、腕の力で支えることが出来なかったと思われる。状態に応じて、スライドボードを使用していく。

インシデント 5件

◎11/26（火）13：30

昼食後、他入居者様の排泄介助を行っていたところ、フロアから大声が聞こえたため、かけつける。リビング正面のトイレの前で、車椅子から転倒しているのを発見する。ご本人痛い所はない、とのことから、起き上がり、車椅子にて居室へ移動する。居室にて、臀部や背中の外傷の確認を行うが、特になし。

→ご本人が見たいDVDを選び、リビングで見ていたため、そこから動かないと思ってしまった。その場を離れ、見守りが不可能な時には、他職員に見守りの依頼を行う。

◎12/11（水）21：34

他入居者様の介助が終わり、リビングに戻ると、冷蔵庫の前で両足を前に投げ出して床に座り込んでいるのを発見する。乗っていた車椅子は、ご本人の真後ろにあり、ブレーキがかかっていない状態だった。痛みや外傷の確認行うも、特になし。

→夕食後から落ち着かず、何度も車椅子を動かそうとして、車椅子からずり落ちそうな状況があったにも関わらず、他利用者様の介助に入ってしまった。隣のユニットに

お連れする等、職員が見守ることができるようにしている。

◎1/5（日）14：00

ベッド上でオムツ交換を行うため、ベッド柵を外し、ベッドの高さをあげる。オムツ交換を始めてから備品が足りないことに気づく。そのままの状態でも備品を取りに、ご本人から離れた際、ベッドから転落してしまう。看護師に報告し、転落した際に打ったと思われる右肩や足、頭部等の外傷確認を行う。右ひざにアザを発見したため、湿布を貼って対応する。

→オムツ交換に入る前に、備品がそろっているか確認するよう徹底していくとともに、ご本人から離れる場合には、ベッド柵を戻すことやベッドの高さを下げること等、丁寧な対応を心掛ける。また、離れる前に、インカムで他スタッフに助けを求め、応援可能か確認することも必要と考える。

◎1/6（月）7：09

朝4時に目を覚まし、リビングにて過ごしていた。他入居者様の起床介助を終え、リビングに戻ると、テレビの前の床に仰向けになっているのを発見する。痛みの訴えはなく、トイレに行きたい、とのこと。車椅子に移乗後、トイレに誘導し、外傷確認するも、特に見当たらず。

→夜間の排尿間隔が2～3時間おきだと分かっていたが、起床後のトイレ以降、落ち着いて過ごしていたため、トイレへの声かけを怠ってしまった。ご本人からの希望時だけでなく、タイミングを考慮し、職員から声をかけ、トイレの確認を行っていく。

◎1/7（火）12：35

他入居者様の下膳を行っている時、ドンツと音がする。音がする方を見ると、尻もちをつかれているのを発見する。痛みを問うも、興奮状態で答えられず。立ち上がる際も問題なくスムーズに行え、椅子に腰かけても苦痛な表情ないことから、痛みはないと判断する。落ち着いてから歩行状態の確認を行うも、変わらない足取りであった。

→食器を片付ける際に、壁側を向き、リビング全体に背を向けていたため、気付くことが出来なかった。食器を片付ける際には、壁側に背を向け、リビング全体が見渡せる位置に立つことにする。

事故報告 0件

感染症

◎インフルエンザ

12/9 介護職員1名

1/5 介護職員1名

◎新型コロナ

1/1 介護職員1名

1/13 介護職員1名

介護支援専門員1名

<p style="text-align: center;">会 議 録</p>	<p style="text-align: center;">日時 令和7年1月24日(金) 14:00~15:20</p>	<p style="text-align: center;">場 所 柏葉尾苑 地域交流室</p>	<p style="text-align: center;">記 録 山本</p>
<p>会議名 令和6年度第5回 運営推進会議</p>	<p>参加者 門池地区連合自治会会長 門池連合自治会副会長 駿河厚生会役員理事 門池地域包括支援センター 駿河厚生会理事長 河野義文 柏葉尾苑生活相談員 手塚春菜 柏葉尾苑看護師 松江敬子 柏葉尾苑フロア長 山本拓真</p>		
<p style="text-align: center;">議 題</p>	<p style="text-align: center;">内 容</p>		
<p>1.開会の挨拶</p> <p>2.入所者状況の報告</p> <p>3.活動状況の報告</p>	<p>理事長「世間ではインフルエンザ、コロナウイルスの蔓延が続いている。駿河厚生会においても、フジビューホームをはじめ各事業所で職員及び入所者様に感染がみられる。本日まで参加いただいている皆様におかれましても、体調に気をつけて頂きたと思います。」</p> <p>【入退院】 R6年11/17~R6年11/19 敗血症 入院 R6年11/19~R6年12/16 別病院に転院</p> <p>【入退所】 退所者2名(看取り) 入所者2名 ※レジメ3ページ目参照。</p> <p>質疑応答 A様「レジメの中で記載されている『平均介護』という言葉は世間一般的に広まっている言葉なのか。平均年齢を出すまではわかるが、介護度を平均で表記する必要があるのかが、素人目に見てわからない。」 理事長「施設系の施設においては『平均介護度』という言葉はメジャーに使われている。介護度の平均を出すことによって生活されている入所者の自立度がわかるため、入職の決め手になったりする。」 A様「メジャーな言葉ならいい。間違った言葉を使って駿河厚生会さんのイメージダウンに繋がらなければいいと思っただけです。」</p> <p>【行事】 手塚「冒頭で理事長よりお話しがありました通り、柏葉尾苑においても職員</p>		

<p>4.感染症報告</p>	<p>のインフル・コロナの感染が続き、年末年始は慌ただしい勤務となった。その中でもクリスマス会・新年会といった行事を開催でき、職員が頑張ってくれていた。また、参加された入居者様も楽しんで頂けたのではないかと考えている。」</p> <p>【研修】 外部研修参加 4件</p> <p>【ヒヤリハット】 1件報告</p> <p>【インシデント】 5件報告</p> <p>【事故報告】 0件報告</p> <p>◎インフルエンザ 12/9 介護職員 1名 1/5 介護職員 1名</p> <p>◎新型コロナ 1/1 介護職員 1名 1/13 介護職員 1名 介護支援専門員 1名</p> <p>手塚「度々申し上げます通り、年末年始で職員がインフルエンザ・コロナウイルスに感染し、お休みをする日が続きました。幸いにも施設に持ち込むことなく、入居者様への感染は無く収束する事が出来たのは不幸中の幸いであると思っています。」</p> <p>A様「世間的にはコロナもインフルも休みは5日間となっている。駿河厚生会さんでも休職の期間はその程度ですか」</p> <p>手塚「インフルエンザについては解熱の状況によるが、原則5日間としている。コロナウイルスについては7日間お休みをとって頂いている状況です。」</p> <p>A様「コロナは7日間なんですね。それだけ休んでも人の手は足りているのか？」</p> <p>手塚「職員がほぼ同時期に発症したため勤務は大変だった。職員も少人数の中で業務調整をして何とか乗り切った状況。ご家族にも連絡をして面会の制限をさせて頂き、居室での面会は控えてもらった。現在も同じ対応を続けている状況です。」</p> <p>A様「念には念を入れてやるのはいいことだ。特に施設なんかはクラスターになったら大変だから慎重にやるに越したことはない。」</p>
----------------	---

<p>5.フロア長から</p>	<p>山本「12月の内部研修で感染症のBCP机上訓練を行った。テーマは『トイレの対策について』でした。大規模災害時にはトイレ問題が深刻になります。法人としてはトイレ用凝固剤を使って処理する方法を想定していますが、ごみ回収業者の稼働も分からない中、ごみの保管をどこで行うのか、災害に備えて必要物品が確保されているのかを話し合いました。参加した職員は自分事として捉え、活発な意見交換ができたと共に、福祉避難所として4名の方の受け入れを想定している為、その方々に開放するトイレはどことするのかを話し合いました。2月にも机上訓練を行う予定となっております。」</p> <p>B様「能登の地震では派遣されたDMATが『ひたすらトイレ掃除をしていた』と言っていた。トイレ掃除を念入りにしていてもインフル・コロナ・ノロの感染は防げなかったそうです。DMATに派遣される医師・看護師は特別な研修を受けているが、プロが掃除をしても広まってしまった。感染症を介護施設がどこまで対応できるのかを机上訓練の中で話し合っておかないと、いざという時に対応できない。今回トイレ問題をテーマにできて良かったのではないかと感じる。」</p>
<p>5.おやつ提供</p>	<p>A様「DMATもそうだが、DWATの介入は法律でかなり厳しく決まりがある。能登の地震の時には福祉サービスが必要な方々に支援が行き届かなかった事が課題だと思うから法律の改正を国に訴えていく方がいいのではないか。」</p> <p>B様「DMATも派遣されてまずやる事はトイレの掃除だと聞いている。念入りに掃除をしても臭いが取れない状況だったと聞いている。」</p> <p>手塚「以前福田様から『救護所の開設』についてお話がありました。そのお話を基に、法人内の委員会でも話にあげさせていただいていますが、大規模災害の際にどれくらいの期間で救護所が開設されると想定されているのか、決まっていたらご教授お願い致します。」</p> <p>A様「大規模災害があったらとにかく集合するような仕組みになっている。震度4以上で市の健康福祉課が地区センターに集合する。震度5以上で地域のクリニックの医師・看護師が診療を停止して地区センターに集合する事になっている。なので必ず救護所は開設します。しかし、救護所が開設しても優先して診る患者は『中等度以上の患者』になると思う。施設で転んで頭から血を出したなど、医師の診察が必要な場合には来て欲しい。」</p> <p>B様「救護所開設の際に担当したクリニックの医師と話をする機会があったが、重症なら直接西島病院に行った方が良いと話が合った。」</p>

	<p>A 様「拠点病院なので西島病院に直接行くようにと言っているなら間違っている。大規模災害の時には医療は必ずひっ迫する。拠点病院である西島病院と市立病院がパンクしては元も子もない。」</p> <p>A 様「話は変わるが、この BCP は自然災害の BCP の一環として行ったものなのか、それとも感染症の BCP として行ったものなのかどちらか。ごっちゃになってしまっていて、わからなくなる人が出るのではないか」</p> <p>手塚「今回は年 2 回の机上訓練を実施するにあたり、自然災害と感染症の訓練をそれぞれ 2 回ずつ計 4 回実施する日程調整がつかなかった。そのため、網羅できるように調整したため、分かりにくいものになってしまっているのではないか。」</p> <p>A 様「BCP は事業をどのように継続するかを明確にするための物なので、この研修資料を渡されただけでは自然災害の中のトイレ問題について扱った物だと思ってしまう。この研修を通して出た意見や課題や対策など、まとまったのかフロア長から教えて欲しい」</p> <p>山本「1 時間の中での研修でしたので、対策までをまとめる時間はなかったが、多くの職員から活発な意見が発信され、有意義な時間となった。消毒一つとってもアルコールが良いのか、次亜塩素酸が良いのか。希釈する為の水がどれほどの量確保する必要があるのかなど、課題が多くみつかったと思っています。」</p> <p>A 様「出てきた課題をそのままにせず、電卓をはじいて計算できるものはすぐにでも出して次の研修で話し合うべき。やって満足の研修は意味がない。取っ掛かりが出来たなら、次は意見や対策を打ち出せる仕組み作りを運営側が用意する必要がある。そのためには自助努力だけで訓練や対策を作るのではなく、市と連携して公助も頼らなくてはいけない。ゴミの回収問題も回収ポイントを定めると市から回答がきた。また、瓦礫の処理は門池公園の北側に回収ポイントを作ると話しがでている。市はまったくそういった事を公表していないが、対策として出来てきているので、どんどん確認するべきだ。」</p> <p>理事長「市からホームページなどを通じてどんどん発信をして頂けないと、こういった施設は自助努力を求められる事が多いので、情報発信をして欲しい。」</p> <p>A 様「門池地区の宝でもある駿河厚生会の皆さまを見捨てるような事はしない。包括さんや保育園の方でも色々とお世話になっていることが多い。お互い助け合ってやっていきたい。」</p> <p>手塚「最後になりますが、令和 7 年度の法人目標として、地域の方々に施設見学を実施する事や長期休みに子供達を対象として行事を行う事を計画している。3 月の運営推進会議の際に、門池地区の方々に、『介護</p>
--	---

	<p>施設に対してどのようなイメージを持っているか、知りたいことはあるか』など、お聞きいただけると幸いです、いかがでしょうか。」</p> <p>A様「施設見学などはやっていただけるならいいと思う。実際、柏葉尾苑さんの地域交流室を活用できるという認識は広まりつつあり、柏葉尾の町内会長も承知している。4月になったら挨拶に行くなど、顔を売る事は必要だと思う。」</p> <p>理事長「この部屋は必要な時を除いては開放するつもりですので、ぜひお声掛けいただき予約を頂ければ大丈夫です。」</p> <p>次回の地域運営推進会議 3月28日（金） 14：00～</p>
--	---